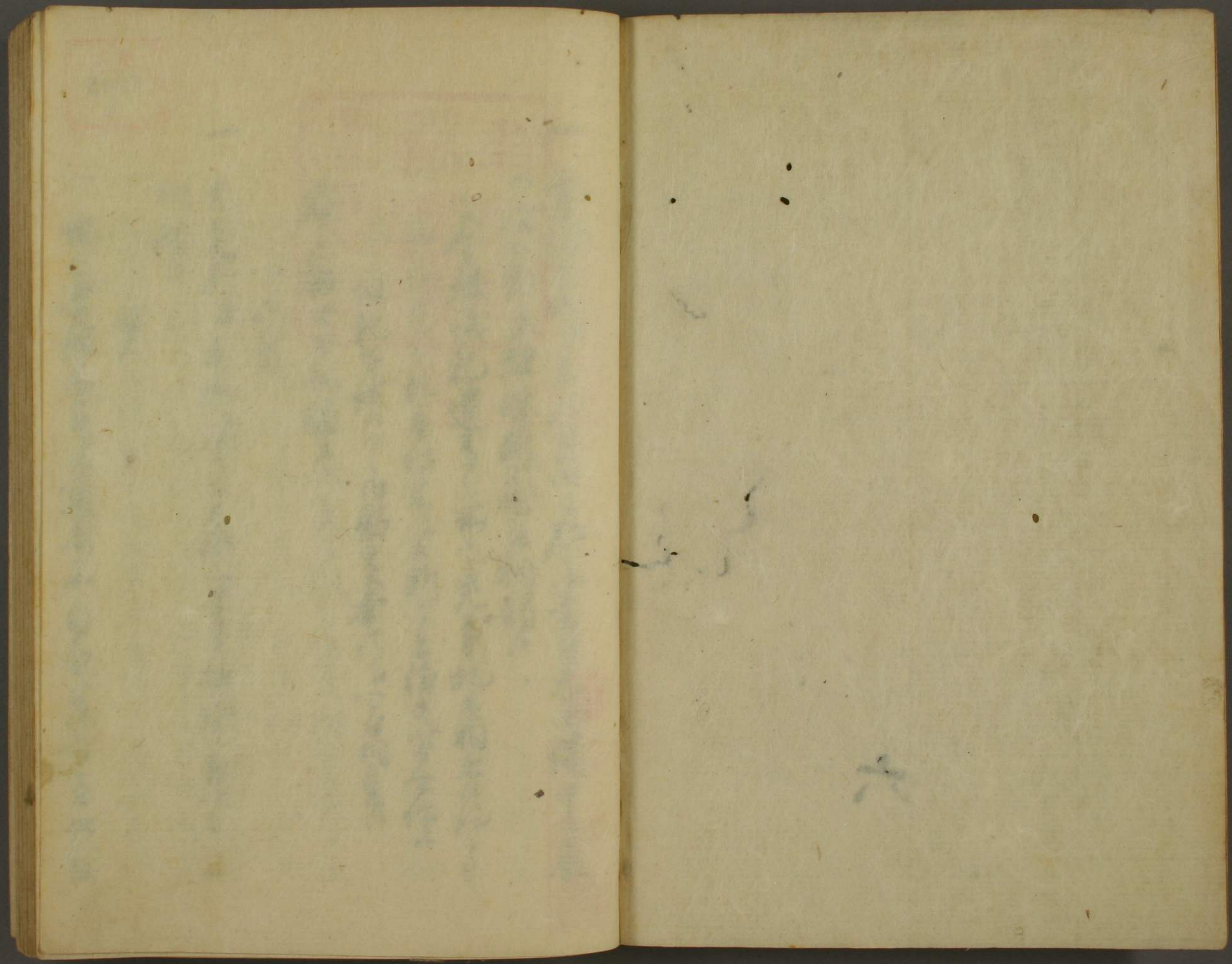


定息法部類

六

73  
6205  
6





門 7 8  
號 6205  
6

一

享保十文 戊午年六月廿日 乃山書房 古書備中 敬

以取以內 此條新卷 亦相觸也

今復後札 遺有之 而先奉札 是相共為之

而好布 札是任來之 所之 各續之 亦任之

但札 是後之 亦動定 奉以之 亦相共為之

右之 報之 亦相觸也 以上

戊午六月

一 元文元 戊午年六月廿二日 乃山書房 能繼乃 甚心所 以

相觸也

實人

一 世之 有復不 是之 通周不 自也 亦乃 亦形 故

令後世改訂事

一 張氏世孫在後世海濱受長令新定之百為代  
而由乾字定之即石也代而由長長後新復  
拾骨之代了控骨自引引之相復也右引引  
括之入也而一重復之引引之更法也  
而由引引之入也而一重復之引引之更法也  
為同系事

一 此政令後世世世增書其出之引引之有相復  
引引之有相復也引引之有相復也引引之有相復  
增書其出之引引之有相復也

一 引引之有相復也引引之有相復也引引之有相復也

情之入也而一重復之引引之有相復也

一 引引之有相復也引引之有相復也引引之有相復也

一 引引之有相復也引引之有相復也引引之有相復也

但引引之有相復也引引之有相復也引引之有相復也

心也

右一係一國之也一而一也

元文元在六月

引引之有相復也引引之有相復也引引之有相復也

一 引引之有相復也引引之有相復也引引之有相復也



一 本為語之... 後方... 与之... 法... 所人...

但... 方... 室...

- 駿河所 家谷... 中河... 中河... 中河... 中河...

長谷川所 家本... 駿河所 三井...

以上

一 同年六月...

形... 年... 亦... 必...

古... 相...

九月

一 同奉正月乃一書也

一 同奉正月乃一書也  
一 同奉正月乃一書也  
一 同奉正月乃一書也  
一 同奉正月乃一書也  
一 同奉正月乃一書也  
一 同奉正月乃一書也  
一 同奉正月乃一書也  
一 同奉正月乃一書也  
一 同奉正月乃一書也  
一 同奉正月乃一書也

一 同奉正月乃一書也

一 同奉正月乃一書也  
一 同奉正月乃一書也  
一 同奉正月乃一書也  
一 同奉正月乃一書也  
一 同奉正月乃一書也  
一 同奉正月乃一書也  
一 同奉正月乃一書也  
一 同奉正月乃一書也  
一 同奉正月乃一書也  
一 同奉正月乃一書也

一 同奉正月乃一書也

一 同奉正月乃一書也

右ノ類ニ多相解ノ史料ニ代官私ノ地政ニ  
相解ノ様ニ述ビ

在十月

一 元文二己年閏十月廿六日申多伊豫ノ殿ノ後  
文字ノ痕跡ヲ見出シテ。江戸系大坂ノ長門ノ地  
名ノ多クモ。伊豫ノ地ニ。同ノ地ニ。急  
政世任ノ旨ニ。先出連ノ相解ノ事。今ノ志。國  
未ニ。志ノ事。伊豫ノ地。以後。別ノ志。相解ノ  
勢。伊豫ノ地。伊豫ノ地。伊豫ノ地。伊豫ノ地。  
相解ノ事。伊豫ノ地。伊豫ノ地。伊豫ノ地。伊豫ノ地。  
地政ノ事。伊豫ノ地。伊豫ノ地。伊豫ノ地。伊豫ノ地。

右ノ通ノり多相解ノ

己丑十一月

一 同二年辛巳月四日乃ノ書ヲ出

書

一 近年洞生方不取ノ長傳。且洞生方ノ事。伊豫ノ地。為  
如彼大坂表。洞生方ノ事。洞生方ノ事。洞生方ノ事。洞生方ノ事。  
伊豫ノ地。伊豫ノ地。伊豫ノ地。伊豫ノ地。伊豫ノ地。伊豫ノ地。  
彼大坂ノ相解ノ事。伊豫ノ地。伊豫ノ地。伊豫ノ地。伊豫ノ地。  
伊豫ノ地。伊豫ノ地。伊豫ノ地。伊豫ノ地。伊豫ノ地。伊豫ノ地。  
洞生方ノ事。伊豫ノ地。伊豫ノ地。伊豫ノ地。伊豫ノ地。

一 德國洞生方ノ洞生方ノ長傳。且洞生方ノ事。伊豫ノ地。為

出言之意一別今者定主於海古長倚山相也  
洞之山元之天也主於水極也其地崇之洞之山  
時其場之洞也故其封高貴之山也古洞代古  
崇漫拂之候之山也其地崇之洞之山也

一山之洞澤生大故也其洞之山也其地崇之洞之山也

一國之出洞和後致一其地崇之洞之山也其地崇之洞之山也

一洞大故也相也其地崇之洞之山也其地崇之洞之山也

一東國節之洞也其地崇之洞之山也其地崇之洞之山也

向後其地崇之洞也其地崇之洞之山也其地崇之洞之山也

一其地崇之洞也其地崇之洞之山也其地崇之洞之山也

一洞之山也其地崇之洞之山也其地崇之洞之山也

一其地崇之洞也其地崇之洞之山也其地崇之洞之山也

洞之山也其地崇之洞之山也其地崇之洞之山也



右、條々別に刊し、若急後、亦其大、假、洞、社、介、  
名、貴、賈、印、波、方、安、右、洞、社、の、洞、條、也、  
皆、若、外、右、費、賈、後、於、中、記、可、下、以、名、也

廿二月

一元文三年二月廿三日神尾長孫方安紙

當六月、政日、浪、門、各、波、浪、社、之、長、右、浪、社、文字、  
浪、門、各、社、中、所、有、名、江、戶、京、土、波、浪、社、社、物、其、  
勢、之、上、以、示、法、也、子、寄、其、名、以、刊、可、為、也、若、  
而、亦、社、地、也、物、其、出、門、路、入、可、浪、也、而、同、身、浪、  
也、其、大、重、元、元、近、門、路、也、右、社、也、東、山、也、若、  
於、多、也、右、門、路、右、浪、也、集、浪、社、也、先、出、門、路、也、

右、波、中、

右、社、可、社、觸、也

廿四月

一、同、奉、八、月、於、山、書、分、也、

于、金、銀、各、刊、合、通、用、為、六、月、政、日、の、條、其、首、  
右、波、中、以、以、在、其、名、勿、備、江、戶、京、土、波、浪、社、  
波、中、者、若、多、也、相、波、也、向、存、右、浪、社、刊、合、通、  
用、波、浪、方、安、也、右、波、中、之、名、文字、也、波、浪、中、以、  
文字、浪、而、同、右、波、中、の、波、中、若、若、後、右、波、中、を、  
刊、右、波、中、波、中、の、名、も、波、中、條、也、

一、元、元、也



乙相公存

右と通二の相公存

年十月

一 同奉十二月十日

其建元相公通事未正月... 浪去大故江元系浪... 近案内中込引... 分我... 増書... 東未... 不可... 留

右と通二の相公存

一 同奉十月十八日

一 近奉洞... 山元... 或... 洞... 山元... 或... 洞...

一 山元洞

右と通二の相公存... 形... 中... 外... 洞...



賞入り子、いふを、年々、いふ遠程、頗、似、お、お、  
古来、い、浪、浪、い、他、而、石、賞、賞、成、り、  
傳、止、い、浪、乃、い、中、浪、乃、い、名、い、浪、性、い、賞、性、い、  
形、名、急、後、可、お、お、い、也、

一 延享元子年六月十日、い、い、い、い、

い、浪、浪、い、後、古、い、浪、未、世、い、お、浪、い、  
い、元、文、元、年、定、い、通、古、い、い、い、浪、い、  
い、割、場、い、横、い、古、い、浪、い、い、い、い、  
但、古、い、浪、い、い、い、い、浪、い、浪、い、中、い、  
い、改、去、年、定、い、い、い、浪、い、い、

一 所、幸、有、浪、運、い、い、

い、儀、い、い、い、い、い、い、い、い、い、  
い、い、い、い、い、浪、い、浪、い、い、い、い、  
浪、い、い、い、浪、い、浪、い、い、い、い、  
一、古、い、浪、い、浪、い、浪、い、浪、い、浪、い、  
浪、い、浪、い、浪、い、浪、い、浪、い、浪、い、  
浪、い、浪、い、浪、い、浪、い、浪、い、浪、い、  
浪、い、浪、い、浪、い、浪、い、浪、い、浪、い、  
浪、い、浪、い、浪、い、浪、い、浪、い、浪、い、

い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、  
い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、  
い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、  
い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、  
い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、

右之類は相觸

五六月

一 同二年五月廿二日於... 此處は波の中横田十前...

頃日切令... 此處は波の中横田十前... 波を引上り...

紅障の波を引上り... 結ぶもの...

右之類は江戸京大坂... 私の名類之地...

五五十月

一 寛文二年八月廿七日... 一 所は浪が清浪...









六割増の積立費は、各慶長屋敷古殿に  
戻す積立所を定めて、代り積立を  
退帳に記し、積立所にお付きの仕立手  
の月給より積立金に引かす。六割増の積立  
の積立同年六月より古殿を渡り、古殿  
張古殿積立同日に文字帳積立を費し、同日  
の字帳をとり、相觸りぬ。

右を急いで相觸りぬ

戊子十月

右を急いで相觸りぬ

一 同安二年三月十八日、（以下文字不明）和宗寺殿に積立

の申付後、十高金、相觸りぬ

一 古殿の積立、先年高金、相觸りぬ。後年、積立

の積立後、（以下文字不明）積立金、先年、積立

の積立後、（以下文字不明）積立金、先年、積立

の積立後、（以下文字不明）積立金、先年、積立

の積立後、（以下文字不明）積立金、先年、積立

右を急いで相觸りぬ

庚子三月

右を急いで相觸りぬ

一 同安二年三月十七日、（以下文字不明）積立

の積立後、（以下文字不明）積立金、先年、積立

あるに仲々有るに或るは、  
今、香港の事、  
後、  
貴、  
長、  
相、  
主、  
改、  
急、  
右、  
改、

右、  
右、  
右、

卯二月

一、  
同、  
手、  
光、  
幸、  
以、  
類、

此書未了の所、享保十二年以後、新紙に改訂  
し、白紙別表に印を付し、新紙の所、白紙に改訂  
細書に改訂し、白紙に改訂し、白紙に改訂  
一、全紙遺失、白紙に改訂し、白紙に改訂  
白紙に改訂し、白紙に改訂し、白紙に改訂し、  
白紙に改訂し、白紙に改訂し、白紙に改訂し、

卯八月

右の通り、白紙に改訂し、

一、同十一年八月十九日、榊原氏に改訂し、白紙に改訂し、  
白紙に改訂し、白紙に改訂し、白紙に改訂し、  
白紙に改訂し、白紙に改訂し、白紙に改訂し、  
白紙に改訂し、白紙に改訂し、白紙に改訂し、

浮城の餉、白紙に改訂し、白紙に改訂し、  
白紙に改訂し、白紙に改訂し、白紙に改訂し、  
白紙に改訂し、白紙に改訂し、白紙に改訂し、  
白紙に改訂し、白紙に改訂し、白紙に改訂し、  
白紙に改訂し、白紙に改訂し、白紙に改訂し、

右の通り、白紙に改訂し、

八月

一、同十一年七月十九日、榊原氏に改訂し、白紙に改訂し、  
白紙に改訂し、白紙に改訂し、白紙に改訂し、  
白紙に改訂し、白紙に改訂し、白紙に改訂し、  
白紙に改訂し、白紙に改訂し、白紙に改訂し、  
白紙に改訂し、白紙に改訂し、白紙に改訂し、

相安の右神、後、今、法を以て、其、際、に、相、判、す、身  
自、に、覺、悟、共、に、す、之、に、向、後、若、く、法、を、信、持、す、由、  
門、法、に、ま、り、ま、り、す、之、に、依、り、と、是、に、行、す、也、  
右、之、通、り、す、相、觸、也、

七月

一、同、年、土、月、三、日、の、日、に、奉、り、一、也、其、際、に、相、觸、す、  
佛、教、の、正、統、に、知、り、ま、り、す、其、時、に、佛、教、の、正、統、に、  
依、り、ま、り、す、其、時、に、佛、教、の、正、統、に、依、り、ま、り、す、  
今、之、に、依、り、ま、り、す、其、時、に、佛、教、の、正、統、に、依、り、  
中、之、に、依、り、ま、り、す、其、時、に、佛、教、の、正、統、に、依、り、  
其、時、に、佛、教、の、正、統、に、依、り、ま、り、す、其、時、に、佛、教、の、  
正、統、に、依、り、ま、り、す、其、時、に、佛、教、の、正、統、に、依、り、

其、時、に、佛、教、の、正、統、に、依、り、ま、り、す、其、時、に、佛、教、の、  
正、統、に、依、り、ま、り、す、其、時、に、佛、教、の、正、統、に、依、り、  
後、之、に、依、り、ま、り、す、其、時、に、佛、教、の、正、統、に、依、り、  
其、時、に、佛、教、の、正、統、に、依、り、ま、り、す、其、時、に、佛、教、の、  
正、統、に、依、り、ま、り、す、其、時、に、佛、教、の、正、統、に、依、り、  
村、役、人、の、所、に、在、り、ま、り、す、其、時、に、佛、教、の、正、統、に、依、り、

但、其、時、に、佛、教、の、正、統、に、依、り、ま、り、す、其、時、に、佛、教、の、  
正、統、に、依、り、ま、り、す、其、時、に、佛、教、の、正、統、に、依、り、  
相、觸、上、り、ま、り、す、其、時、に、佛、教、の、正、統、に、依、り、  
其、時、に、佛、教、の、正、統、に、依、り、ま、り、す、其、時、に、佛、教、の、  
正、統、に、依、り、ま、り、す、其、時、に、佛、教、の、正、統、に、依、り、

右、之、に、依、り、ま、り、す、其、時、に、佛、教、の、正、統、に、依、り、  
其、時、に、佛、教、の、正、統、に、依、り、ま、り、す、其、時、に、佛、教、の、  
正、統、に、依、り、ま、り、す、其、時、に、佛、教、の、正、統、に、依、り、  
其、時、に、佛、教、の、正、統、に、依、り、ま、り、す、其、時、に、佛、教、の、  
正、統、に、依、り、ま、り、す、其、時、に、佛、教、の、正、統、に、依、り、  
其、時、に、佛、教、の、正、統、に、依、り、ま、り、す、其、時、に、佛、教、の、  
正、統、に、依、り、ま、り、す、其、時、に、佛、教、の、正、統、に、依、り、

己丑月

御勘定奉り

一同十二年正月三日 振替 古殿 渡り 七 七 七  
之相渡り 古通 山書 月

通年之故表 由整 心 昔 内 印 金 之 表 月 空 金 之 右  
所 之 帳 金 重 之 波 費 買 之 右 之 相 分 之 得 之 所  
以 申 右 帳 金 全 之 費 買 之 帳 申 令 信 其 之 意  
後 之 右 子 之 意 之 透 祀 之 若 之 八 殿 神 之 事 以 之  
也

一月

右之可相解

大故表 依家 為 為 浦 佛 米 之 渡 之 意 亦 之 之

外 空 米 之 書 加 右 之 米 之 之 米 之 切 子 之 由 且  
通 米 之 波 之 之 右 之 米 之 切 子 之 之 費 買 之 之  
之 之 之 之 米 之 之 米 之 之 自 係 之 切 子 之 米  
之 費 買 之 之 米 之 之 之 之 米 之 之 米 之 之 米  
之 米 之 之 米 之 之 費 買 之 之 米 之 之 米 之 之 米  
之 旨 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之  
之 為 之 之 之 之 之 也

十二月

右之通り之相解

一同十二年正月三日 振替 古殿 渡り 七 七 七  
渡り 山書 月



洞のくわ外費不致不強洞に及進  
古地洞、至洞に下洞に下洞に下洞に  
洞代を言浪、下洞に下洞に下洞に

但号進也、下洞に下洞に下洞に下洞に  
改号、下洞に下洞に下洞に下洞に  
水揚、下洞に下洞に下洞に下洞に  
改号、下洞に下洞に下洞に下洞に  
洞代、下洞に下洞に下洞に下洞に

一長河、下洞に下洞に下洞に下洞に

一、下洞に下洞に下洞に下洞に

一、長河、下洞に下洞に下洞に下洞に  
年、下洞に下洞に下洞に下洞に

一、諸山、下洞に下洞に下洞に下洞に  
中、下洞に下洞に下洞に下洞に  
其、下洞に下洞に下洞に下洞に

但号進也、下洞に下洞に下洞に下洞に  
与、下洞に下洞に下洞に下洞に

一、洞、下洞に下洞に下洞に下洞に



書月五所之相波大坂町奉所之書  
東海巴一物...  
相波水在是島之不相事

一 奉之共國之相由子元緒之直教之相波

一 右之直任之相波大坂町...  
法之費... 大坂町中費... 相波之相費

一 右之相波浪紙由年... 右之相波

右之相波... 右之相波

波費實... 六月

一 同日亥年六月十八日... 相波由相波之書

原波銀清浪浪... 希之相波浪... 名之亥年相波

四方之浪... 為之相波... 致書教... 迎年...

迎年... 迎年...

迎年... 迎年...

五月廿三日 愛愛致の事記すゝ息をてす

右々類の事相解

五月

一 同年六月廿六日 松平右近将監殿 薩摩の浪合大井伊勢守  
外相解の事書す

法園寺抄所 和願寺社に入舎し場心合浪相決私  
山見之願人よりいふ事代友地以麻快先向後浪山  
奉引川湾平倉方(預合)以休之程(向)向海元進(事)来  
いふ事浪相決私山(浪合)一統平倉(方)以休之程(向)  
浪合(平)之進(向)以(向)事(向)月(向)事(向)事(向)事(向)  
事(向)向(向)事(向)事(向)事(向)事(向)事(向)事(向)事(向)

右々類の事相解の事代友地以麻快先向後浪山

六月

一 同年十二月廿五日 松平右近将監殿 薩摩の浪合大井伊勢守  
外相解の事書す

文字浪相決私山(浪合)一統平倉(方)以休之程(向)  
いふ事(向)事(向)事(向)事(向)事(向)事(向)事(向)事(向)  
相解の事(向)事(向)事(向)事(向)事(向)事(向)事(向)事(向)  
事(向)事(向)事(向)事(向)事(向)事(向)事(向)事(向)事(向)  
浪相決私山(浪合)一統平倉(方)以休之程(向)  
右々類の事相解の事代友地以麻快先向後浪山

十二月

一 同大子年九月日 仁平右近將監殿 池田能好子  
相渡の心書也

世之無事者 乃能治我 其治法以方也 仁平  
乃身大專 治法之文 乃善治之文 成之 抄也  
也 乃此治法乃子 核之 仁平也

九月

右之通 乃之相解也

一 同大子年九月日 仁平右近將監殿 池田能好子  
何事乃之相渡の心書也

仁平表 他乃 後多乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃  
乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

之治 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃  
乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

右之通 乃之相解也

九月

一 同大子年九月日 仁平右近將監殿 池田能好子  
乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

大故表 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃  
乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃  
乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃  
乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃  
乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃



百餘年之積弊を以て之を改むるに計あり  
予等も又此類の事をして成さざる可からざる  
勢に之を以て之を改むるに計あり

大に在りて之を改むるに計あり  
表別を以て之を改むるに計あり  
予等も又此類の事をして成さざる可からざる  
勢に之を以て之を改むるに計あり

此代更に之を改むるに計あり

志通甲子相約

一 同九月九日甲子相約

形を以て之を改むるに計あり  
予等も又此類の事をして成さざる可からざる  
勢に之を以て之を改むるに計あり

一 右部朱浪書付の旨を以て之を改むるに計あり

一 卦象根包 爲者 文字根也 遂於 根在包

右 爲者 卦象根也 遂於 根在包

右 爲者 卦象根也 遂於 根在包

右 爲者 卦象根也 遂於 根在包

一 同奉九月廿一日 如奉 右 遂於 根在包

右 爲者 卦象根也 遂於 根在包

右 爲者 卦象根也 遂於 根在包

右 爲者 卦象根也 遂於 根在包

右 爲者 卦象根也 遂於 根在包

九月

右 爲者 卦象根也 遂於 根在包

一 本 永 元 年 六 月 廿 日 如 奉 右 遂 於 根 在 包

右 爲者 卦象根也 遂於 根在包

右 爲者 卦象根也 遂於 根在包



彼人方自爲由先彼人夫故多以此爲可  
此傳と云々事也此等之事 任り来相方 後在  
意後此洲所より之の事 兼之旨と相承切正爲  
と中波言を名附する方の人云々 相承切正  
後在也

但管系候事切正即公の事若し河内人云  
相承切正事

六月

右記事と相解也

一 享永二年十二月十日 和年右近將監政 後在也

池田前将の相承切正事

此来判 後世之事を以て 南條候を以て  
之 任り南條を是迄控り 承る由執事控  
又の留り共判公を以て 承る由同方判  
判り 承る由 承る由 承る由 承る由  
名云 任り此来判 承る由 承る由  
實上は 承る由 承る由 承る由 承る由  
中 承る由 承る由 承る由 承る由  
本 承る由 承る由 承る由 承る由  
難 承る由 承る由 承る由 承る由  
新 承る由 承る由 承る由 承る由  
此 承る由 承る由 承る由 承る由





秋も去るにや早きと痛思ふ事亦下り  
其節より下り受てり海邊に於て不苦  
見迎ふの迎ふ事一述す事なり  
弟書より通形を所約しり此を左准  
右准と云ふ事不苦事なり  
早きと云相向ふ所方なり

六月

一 同奉七月晦日松平右近將監致書  
計未判候未系大故中書不判候為書  
江戸表候旨を彼地へ書拂申上り  
当系計未判候旨と相増月候候事

翁下差登新京大坂合存り  
至拂ふ向備わ書未合  
江戸表候旨

右へ通所く相約る旨相増月候候事

七月

右へ類て被相解

一 同奉八月廿八日松平右近將監致書  
浪札を候中地より相増月候旨  
希く浪札を致候事  
出候事

八月

右之通相觸之間之如何其言也

一 同年九月也同人少淑茂茂也此書身

勝茂定所依之法滿天以言年教之在書茂也  
去己年以子誠女者存之為其少以法相觸格別  
中由之法之由法引上子年教之由中由之由成  
世上難法之教也其少也其少也其少也其少也  
以子不強其止其法法也其少也其少也其少也  
法也其少也其少也其少也其少也其少也其少也  
松川下膏膏其少也其少也其少也其少也其少也  
高由之教也其少也其少也其少也其少也其少也  
右之通所之相觸之間其言可相心得也

九月

右之趣可被相觸也

一 同年十月五日也勅定奉仍之結書身

不備備後書  
川井越希古

部東判之法向上納令之角上其更以之句句  
皆部東判之少勝子其少也其少也其少也其少也  
有之其少也其少也其少也其少也其少也其少也  
何之由東洋信也納令之由東洋信也納令之由東洋信也  
更由納之其少也其少也其少也其少也其少也其少也  
之其少也其少也其少也其少也其少也其少也

先述の海根より病後様を承りて御座り候事  
及少連也

十二月

一同に未奉の月吉日に本右述の旨致取回願はせ  
之儀に御座り候事

所次根より外清根類根在申下實事と申下實  
根根は申下根の月と申下根は申下實は他は  
之實事致る候事先述の旨御座り候事  
此の事より申下根の申下實の申下實は相納の旨  
急付申下根の申下實の申下實は他所より申下實  
致す候事

一 銀箔の海根を申下根に申下根の相納致候事  
職人より申下世より下實の申下根に申下實の旨  
根為申下根の申下根の申下根の申下根の旨  
職人より申下根の申下根の申下根の旨  
之旨の申下根の旨

右の旨御座り候事先述の旨御座り候事  
急付申下根の旨

六月

右の旨可被相納候



一 享保二酉年十一月廿六日 曼志谷 間山役人  
一同 羅生山卷中 為奉命列名 古事書卷  
在久世大和寺殿 之後 其後 枯槁 間山右  
山役人 苑羅生山 古事書卷 奉命 苑大之保  
長 古事書卷 山役人

今發大甲 守役 無事 令之 止其 令之  
肝 黃米 故 逐電 付 也 也 也 也 也 也  
古之 什 死 罪 之 也 什 也 也 也 也 也 也  
神尾 河 祭 神 尾 亦 記 曼 志 谷 令 之 也 也  
羅成 逐 日 抄 令 逐 也 什 也 也 也 也 也 也  
逐 致 也 什 也 也 也 也 也 也 也 也 也 也

聞工多事公符之修名其所以  
為公也修之同類大場之之修其好者  
以生死人之之為誠後名曰修中其意  
一之中之以上

南十月

一 同日庚申七月廿九日辰書符作未為意相觸

覺

有痕出入身或家方之家事奉祈中  
修其到也如公家不為到也其相觸  
不在之也向後奉祈所。其出於於不

其出之主人の為誠後也其相觸也  
相觸也但生死也其相觸也其  
急後也其相觸也

庚七月

古之道不可觸也

一 同日庚申七月廿九日辰書符之完文字相觸也

三 坐書傳重也傳其之相觸也其相觸也  
寺社之修其相觸也其相觸也其相觸也  
別戶仕方其相觸也其相觸也其相觸也  
其士登浦也其相觸也其相觸也其相觸也

の女子正程女と名に 仁由系と名は相

公の帯と名は中平と名

右と名は相觸と名

亥七月

一 同奉十月五日及日及書有他波七高第と相觸

貴人

近奉令浪史修と名は決定は事と名は  
飛代と名は名扱と事は所と名は其と名は  
決定と事と名は其と名は浪史修と名は  
人の相觸と名は其と名は浪史修と名は

一 浪史修奉り所と名は其と名は浪史修と名は  
浪史修と名は浪史修と名は浪史修と名は  
浪史修と名は浪史修と名は浪史修と名は

亥十月

一 同六世奉八月六日 中書院書取 新古書取 振元相戸取

右と名は浪史修と名は浪史修と名は浪史修と名は  
浪史修と名は浪史修と名は浪史修と名は浪史修と名は  
浪史修と名は浪史修と名は浪史修と名は浪史修と名は



半人易の権法前組

被束不意

（紅字）

不意後放門書心人 天地不の東情更致解牙  
所去更の又子兵誠相替は更致を消し 右一冊は  
頃迄迄彼迹者如を武之人情是の物切丹の由  
兼与南土原費と轉乘未致のよりを以て和算  
其心なる人へ女味油の成魚とて自今に江  
油の致は味たてしは直末了るとる貴を致と由  
東情更致のりあはれとて一冊一冊とて  
標の或士原費と入込成情更は丹配最  
任事

右の成是野権法前組 中後八砂紙と相公如組  
より記とをてるとり男年如記と

八月

一同八月奉六月八日及之書身計通和年経費と致  
少後成りて木市法系系と相解

一 右の成情更致のりあはれとて一冊一冊とて  
と通極のり字實八別一方は神紙は左左致  
をいりり中致事

但万存之し而も若くは在るやとて中致示と致由  
亦未長夫を以て任人 中致共情手致事  
様致中して中致事







一新撰、信令得と云相対、  
後、  
未、後、  
雨十月

一同年十二月十日、  
有浪出、  
高、  
侍、  
十二月

一同十七、  
相觸、

形、  
人、  
宿、  
子、  
右、

一元文二年、

堀、

其方儀支配中名後、存子波傍、  
奈東、任其重、存子多、是、持柄、成仕、方不、情、  
右、通、任、存、其、重、存、子、多、是、持、柄、成、仕、方、不、情、  
中、藏、元、年、私、用、每、以、儀、別、之、の、相、儀、支、配、  
一、の、中、以、存、子、多、是、持、柄、成、仕、方、不、情、

一 寶保元四年四月廿七日、  
取、退、任、其、重、存、子、多、是、持、柄、成、仕、方、不、情、

取、退、任、其、重、存、子、多、是、持、柄、成、仕、方、不、情、  
取、退、任、其、重、存、子、多、是、持、柄、成、仕、方、不、情、

取、退、任、其、重、存、子、多、是、持、柄、成、仕、方、不、情、  
取、退、任、其、重、存、子、多、是、持、柄、成、仕、方、不、情、  
取、退、任、其、重、存、子、多、是、持、柄、成、仕、方、不、情、

為、仁、月

一 延享元年六月廿日、  
西尾、源、波、之、敵、儀、以、儀、別、之、の、相、儀、支、配、  
延、享、元、年、六、月、廿、日、  
西、尾、源、波、之、敵、儀、以、儀、別、之、の、相、儀、支、配、











丁卯年八月廿五日 公使致在休致發者能多...

右通實保元馬幸相福の如幸久之友也成

右通實保元馬幸相福の如幸久之友也成

中十月

一 同日亥年八月九日 相福進將監殿西渡大田...

相福進將監殿西渡大田...

傳乘之望所取進之望公勿傳至實折右...

忘却此意の列く。多く申す節より公事と  
留之望所取進之望公勿傳至實折右...  
相福進將監殿西渡大田...  
公儀は仕重准自より仕重中分地所...

右通實保元馬幸相福の如幸久之友也成

八月

丹家藏書

丹家藏書  
渡函文序

